

第41回 うつのみやこども賞だより

令和6 (2024) 年度 7回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番友達にすすめたい本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『ぼくの色、見つけた！』

志津 栄子／作 末山 りん／絵（講談社）



令和6年12月 1日

～読んだ本の感想より～

- ものがたりを読んでいくうちに、お母さんのひみつもわかってすっきりした。自分も「ララ」を見つけないかと思共感した。
- 色覚障がいを持つ信太郎が担任の平林先生や友だちとかかわりながら、自分と向きあっていくところや「自分だけの色」が良かったです。
- 色覚障害は、男の子が20人に1人だと知って、身近に感じ、びっくりしました。
- 色覚障害のある主人公が、先生のおかげで、自分は自分でいいことを知り、絵にのめりこんでいくところがおもしろかった。
- 主人公から見た色の見え方がくわしく書いてあっておもしろかった。
- 信太郎が、苦手を克服していく姿を見せてくれる先生に出会ったことで成長していくのがいいと思いました。最後にはお母さんの「信ちゃんひとすじ」もなくなってよかったです。

『わたしのカレーな夏休み』 谷口 雅美／著（講談社）

- ワンコインイベントで作ったカレーは誰にでもやさしくて、お肉や魚も食べられない人のためにメニューを作りなおすところが感動した。
- この中で一番おもしろかったです。めずらしい、小説の中のレシピにもひかれました。
- 「ワンコインデー」に向けてオリジナルカレーを作る3人がとてもすごいうえんしたくなった。
- カレーは好きだけど、スパイスに目を向けたことはなかったので、とても興味深い本だと思った。
- ハルカとショウとタツキが、誰にでも食べられるようなカレーを協力して考えていてすごいと思ったし、おもしろかったです。

『夏がいく』 伊多波 碧／作（理論社）

- はじめはいやなやつと思っていた清吾と、ゆうれい退治や夏祭りなどを通じて友達になっていくところがおもしろかった。
- 寺子屋から始まる物語も、清吾との出会いやおきくとの関係、おふみのやさしさ、すべてに引きこまれた。
- 優太がお金のために、亡くなった弟になりすますのがおもしろかった。最後にはおきくと優太が子供を生んだことにおどろいた。
- 優太が、清吾を先生にするため、十四郎をせっとくした場面がいいと思いました。亮太がまた清吾に会えるといいなと思いました。

『サーファーガール かがやく波に乗れ！』
麻生 かつこ／作（小峰書店）

- ひかえめな性格だったひなたが、サーフィンを通して活発になっていくのが面白かったです。波にのまれてサーフィンをやめてしまいそうになった時はハラハラしたけれど、また始められてよかったです。
- サーフィンでかかっている部分を読むとサーフィンをやってみたいと思いました。
- 親にナイショでサーフィンというあぶなそうな遊びを中学生の友達といっしょにしているとき、おもしろかった。